

一ツ葉高等学校
代々木キャンパス

令和2年度前期

「総合的な探求の時間」
優秀論文集

はじめに

本書は、一ツ葉高校代々木キャンパスに提出された「総合的な探求の時間」のレポートから、優秀論文を選定してまとめたものである。

最初にお断りしておかなければならないのは、「総合の時間」の先進事例とされている、今はやりのSDGsを追いかけたり、大学の実験施設を借りて大規模実験をしたり、といったような大それたことは一切していないということである。むしろ、生徒たち個人が自分の抱える問題に気づき、向き合ったうえで、それが社会的な問題や自分の進路とつながっていることに気づく、という大変地道なプロセスに重きを置いている。

というのも、通信制高校という本キャンパスが置かれた厳しい現状が背景にある。全日制でない本校は、さまざまな背景で前の学校から転校してきた生徒が大部分を占める。前の学校で数か月の不登校を経験したり、もともと勉強が好きでなかったりという理由で、学力やコミュニケーション能力に問題を抱えている生徒も多い。「睡眠障害」「聴覚過敏」などの名前のつく障がいを抱えている生徒もいるし、「極端な人見知り」「気圧が低いと起き上がれない」「ゲーム依存」「スマホ依存」といった生きづらさを抱えた生徒もいる。毎日学校に通うという身体的・精神的負担に耐えられず、かといって特に目標もなく、現実を見つめる勇気もなく、ただ日々を漂っているだけ、というのが実情なのである。

そうした状況のなかでも、自分にとって何が理想なのかを考え、どういう現実にいるのかを踏まえ、そこに問題を発見することができれば、それは生徒たちにとって非常に大きな一歩になる。

そこで、本キャンパスでは、「問題を発見し、原因を探求し、解決策を考える」というプロセスを穴埋め式にし、学力に不安を抱える生徒でも難しい思考のプロセスをたどっていけるようにした（詳細は「おわりに」参照）。一番重要な「問題発見」の場面では、一人あたり30分ずつの個別面談をオンラインで行い、その後、テーマごとの班に分かれて週1回のゼミを4～5回行った。1回のゼミで1章ずつ順番に書き上げていくことで、基礎学力や生活習慣に問題を抱える生徒でも、なんとかメ切まで乗り切るように配慮した。

目次をご覧いただければわかるように、通常の学校ではNGになるテーマも選出されている。「アイドル依存症」「スマホ依存症」などは、フツウの学校では「気持ちの問題だから自分でなんとかしなさい」と一蹴されてしまうようなテーマかもしれない。しかし、新聞などで取り上げられて社会的問題になっていたり、生徒の進路に関連したりすることが確認できる限りは、正当なテーマと認めた。そのテーマが生徒と社会、生徒と進路をつなぐ糸口になると考えたからである。

「総合の時間」スペシャルアドバイザー 安藤 理

目次

スマホ依存症を脱するには？

2年 I (イニシャル)

アイドル依存症から抜け出すには

3年 K (イニシャル)

革小物の制作実践

～伝統工芸を職業選択の一つとして～

2年 山田結香

肌荒れを防ぐには

2年 蓮 (仮名)

戦争を防ぐには

～第一次世界大戦から第二次世界大戦後の期間に注目して～

2年 F (イニシャル)

スマホ依存症を脱するには？

2年 I (イニシャル)

1. 問題設定

本研究の目的は、スマホ依存の脱出方法を探ることである。

理想・目標としては、スマホ依存を脱出したい。しかし、現実としてはスマホ依存になってしまっている。毎日何時間もスマホでYouTubeを見たりSNSを使ったりしてしまうのである。どうすべきか。

こうしたスマホ依存は、私だけでなく、社会的にも大きな問題になっている。日本経済新聞デジタル2019年9月5日の新聞では、スマートフォン依存に関して、自覚している人が約7割だったとの調査を発表した。スマートフォンの使いすぎは心身に変化をもたらすとともに、社会生活へも影響を与えてしまう。

そこで、本研究では、これまでの自分の体験をもとに、スマホ依存症に関する文献を参考にしながら原因を探求し、今後の解決策を探っていくことにする。

2. 先行研究

日頃から「予防」を心がけ規則正しい生活をすればスマホ依存を脱出できると考えられてきた。たとえば、文部科学省ホームページによると、「インターネット利用のルールをつくって守りながら使う」と書かれている。しかし、実際はルールをつくって守りながら使うこと意識したのに、スマホを触ってしまう。なぜルールを作って守りながら使うことを意識したのにスマホを触ってしまうのか。

本研究では、依存症に関する文献を参考にしながら、自分がスマホ依存になってしまう原因を探求し、解決策を導くことにする。

3. 自分の経験に基づく分析と考察

ここでは、これまでの自分の経験と、岡田尊司 (2016) とゆうきゆう／ソウ (2016) に書かれているスマホ依存の原因と照らし合わせながら、自分にあてはまる原因を見つけていく。

自分にあてはまると考えられるのは、「①寂しさ・満たされない気持ちがある説」「②現実逃避のため使用説」「③時間つぶしのための使用説」の3つである。

①寂しさ・満たされない気持ちがある説

「寂しさや満たされない気持ちがある人ほど依存症になりやすい」という仮説にあてはまることがわかった。なぜだろうか。友達から連絡が来ない時や家にひとりである時、寂しさや満たされない気持ちを紛らわすためにスマホを使用してしまうことが多いからだ。

②現実逃避のための使用説

(ストレス発散目的など)

「現実逃避のために使用する人ほど依存症になりやすい」という仮説にあてはまることがわかった。なぜだろうか。勉強やアルバイト、友達関係など現実でストレスを感じた時、私の場合はYouTubeを見たり、ゲームをしてストレス発散しようとしてしまう。YouTubeを見ている時は心が安らぐ気がするからだ。

③時間つぶしのための使用の説

「時間つぶしのために使用してしまう人ほど依存症になりやすい」という仮説にあてはまることがわかった。なぜだろうか。少し時間があいているからゲームしたり、YouTubeをみたりするといつの間にか何時間もたっていたりする。このように少し見ようと思ったら何時間もたっていたということが何回もあるからだ。

以上の3つに対し、「④集団適応が苦手・孤立の説」「⑤若いうちからネット使用説」は私にはあてはまらないと考える。

④集団適応が苦手・孤立説

「集団適応が苦手や孤立している人ほど依存症になりやすい」という仮説にあてはまらなかった。なぜだろうか。私は最初は人見知りだが、何回か話すとすぐに仲良くなってしまうタイプだと思うからだ。

⑤若いうちからネット使用説

「若いうちからネット使用している人ほど依存症になりやすい」という仮説にあてはまらなかった。なぜだろうか。小学生5年生の頃にスマホを買ってもらったが、WiFiのギガ制限があり、YouTubeやネットをみてしまったらすぐにギガが無くなってしまうので、小学生の頃、依存にはならなかったからだ。

以上のように、「①寂しさ・満たされない気持ちがある説」「②現実逃避のため使用説」「③時間つぶしのための使用説」の3つが、私のスマホ依存の原因だと考えられる。そこで、この原因をもとに、次の章で解決策を探っていくことにしよう。

4. 結論

前章を踏まえ、今後の解決策を考えていく。

(1)夢中になれることを見つける

これまでの分析で、寂しさや満たされない気持ちがあるからだと考える。裏返せば、寂しさや満たされない気持ちを満たせば、スマホを触る時間が減ると考える。具体的には勉強をしたり、スマホの代わりに本を読んでみたり、などを実施していきたい。

(2) 運動をする

これまでの分析で、現実逃避（ストレス発散）のために使用しているからだと考える。裏返せば、私の場合の現実逃避はストレスによるものなので、運動はストレス軽減になり、スマホを触る時間が減ると考える。具体的には筋トレやストレッチ、瞑想などをする。

この問題はスマホの代わりに本を読むことでも解決できると考える。

(3) 物理的遮断をする

これまでの分析で、時間つぶしのために使用しているからだと考える。あいている時間に触ってしまってそこから2時間たってしまうことがあるからだ。具体的にはスマホを触りたいと思ったら5分待ってみたり、寝る前にスマホの電源を切ったりしてみる。こうした少しずつの物理的遮断がスマホ依存脱出の練習になるはずである。

5. 今後の課題

今回は自分の経験だけをもとにレポートを書いたため、他の人にこの解決策があてはまる保証はない。そこで今後は大学でアンケート分析などを学びながら、多くの人にあてはまる理論や解決策などを見出していきたい。

【参考文献】

文部科学省

https://www.mext.go.jp/a_menu/sports/ikusei/taisaku/taisakumd/1356354.htm

岡田尊司 (2016) 『インターネット・ゲーム依存症』株式会社文藝春秋。

ゆうきゆう／ソウ (2016) 『マンガで分かる心療内科 依存症編 (ネット・スマホ・ゲーム・ギャンブル・ポルノ)』少年画報社。

講評 <ケーススタディ><正しく反省する>

本論文は、「スマホ依存症」という個人的な悩みについて、文献と自分の経験や特性を照らし合わせたうえで、解決策を導いているケーススタディの優秀論文である。本校の場合、「自分はスマホ依存だな」と気づいてはいても、そこから原因を探求し、解決してみようと一歩進むことのできる生徒は少ない。その点で、小さいが確実な一歩を踏み出したこの論文は優秀論文に値する。本論文の執筆で身につけた「問題発見・原因探求・問題解決」のプロセスを通じて、今後もさまざまな問題に対応していつてもらいたい。

アイドル依存症から抜け出すには

3年 K (イニシャル)

1. 問題設定

本研究では、これまでの自分の体験をもとに、アイドル依存症に関する文献を参考にしながら、今後の解決策を探っていくことにする。

理想・目標としては、アイドル依存をやめたい。しかし、現実としてはやめられない。アイドルのことをついつい考えてしまって、勉強などに手がつかないのである。どうすべきか。

こうしたアイドル依存は、私だけでなく、社会的に大きな問題となっている。朝日新聞2013年3月11日の生活面では、「アイドルに夢中になるあまり家事や仕事、勉強等が手につかず、日常生活に支障をきたす人もいる。これはアイドル依存症と言える。」と書かれているのである。こうした状況においては、私の経験をもとにアイドル依存の原因をとらえ、解決策を導くことは社会的に大きな意義を持つことになる。

そこで、本研究では、筆者自身の経験と依存症に関する文献とを照らし合わせながら、アイドル依存の原因と解決策を探っていく。

2. 先行研究

学校の先生や保護者からは、「自分をコントロールする力があれば、依存症から抜け出すことができる」と指摘されてきた。しかし、コントロールすることができなかった。今やらなくてはいけないことがあるのにアイドル中心で考えてしまうのである。なぜか。

以上のような背景から本研究では、依存症に関する文献を参考にしながら、自分がアイドル依存症になってしまう原因を探求し、解決策を導くことにする。

3. 分析

ここでは、信田さよ子 (2000)、ゆうきゆう (2016)、榎本稔 (2007) に書かれている依存症の原因と自分の経験を照らし合わせ、自分にあてはまる原因をリストアップする。

(1) 強迫性がある人

私は強迫性がある。推しに会いたいからライブには絶対に行きたいし、ヲタクの友達がいるから会いに行きたくなってしまふ。だから何度もライブに行ってしまう。

(2) 反復性がある人

私は反復性がある。最初はSexy Zoneのヲタクをしていた。すると、Sexy Zoneのバックで踊っているジュニアの子がいて、自分と同じぐらいの年齢でかっこよく見えた。そこで、その子のヲタクをすることにした。ジュニアのヲタクをしているうちに、だんだんほどよくマイナーなアイドルのヲタクをしたいと思うようになった。以上のように、ヲタクをやめようと思ってもすぐに違う推しを見つけてしまう反復性があるのである。

(3) さびしさや満たされない気持ちがある人

私は満たされない気持ちがあった。ヲタクになる前は趣味や興味があることがなく毎日暇だった。だからこれが当てはまると考えられる。

4. 考察

ここでは、前章でピックアップされた原因について、具体的な自分の経験を掘り下げ、解決策につながるアイデアを考察することにする。

(1) 強迫性説

前章で、「強迫性がある人ほど依存症になりやすい」という仮説に私があてはまることがわかった。これはなぜだろうか。過去に推しに会いたいから絶対にライブに行かなくてはいけないと思ったことがあるからと、ヲタクの友達に会いたくなると思った経験があるからだ考える。ここから、ヲタクの友だちというネットワークが強迫性の原因と考えられる。

(2) 反復性説

前章で、「反復性がある人ほど依存症になりやすい」という仮説に私があてはまることがわかった。なぜだろうか。過去にヲタクをやめようと思ったことはあるがすぐに別の推しを見つけてしまう経験があったからだ考える。このように、すぐに別の推しを見つけてアイドルの追っかけ行為を反復してしまうのは、そもそも私が飽き性だからだと考えられる。

(3) 満たされない気持ちがある人説

前章で、「満たされない気持ちがある人ほど依存症になりやすい」という仮説が私に少しだけあてはまることがわかった。なぜだろうか。ヲタクになる前はやることが特になくて暇だった時が多かった経験があったからだ考える。

5. 結論

(1) ネットワークの繋がりを切る

強迫性に関する考察からわかったのは、ネットワークの繋がりが原因だということだ。裏返せば、ネットワークのつながりを切れば強迫性もなくなるはずだ。具体的には、TwitterやInstagramで作っているヲタ垢を見るのをやめるとというのが考えられるだろう。

(2) 飽き性を治す

これまでの分析で、すぐに別の推しを見つけてしまう飽き性というのが原因と考えられる。裏返せば、飽きずに1人だけを推していれば他の人に目移りすることもなくなるはずだ。そして、目移りしないようにすれば、反復性を断ち切ることができるかもしれない。具体的には、少しいいなーって思っただけの子にファンサを貰いにいったりしようとするのをやめるとというのが考えられるだろう。

(3) 彼氏を作る

これまでの考察で、推しに会うことで自分の気持ちが満たされているからだとわかった。これを踏まえると、アイドルという存在ではなく身近にいる一般人でも気持ちを満たせるかもしれない。具体的には、まず彼氏を作るというのが考えられるだろう。

今後の課題としては、文献には載っていたが私にあてはまらなかったため、本文で削ることになってしまった「衝動性」「まじめさ」などの原因を正確に把握するような心理尺度の勉強をし直して分析を再度試みたい。また、今回は自分の経験だけを元にレポートを書いたため、他の人にこの解決策が当てはまるという保証はない。そこで、今後は大学の心理学部に進学し、アンケート分析などを学びながら、多くの人に当てはまる理論や解決策などを見出していきたい。

【参考文献】

信田さよ子 (2000) 『依存症』文春新書。

ゆうきゆう (2016) 『マンガで分かる心療内科 依存症編』少年画報社。

榎本稔 (2007) 『依存症がよくわかる本』主婦の友社。

講評 <ケーススタディ><正しく反省する>

本論文は、「アイドル依存症」という新奇なテーマを検討した優秀論文である。依存症に関する既存の文献と、「そろそろ受験勉強をしないといけないのについついアイドルの追っかけに走ってしまう」という個人的な経験をもとに「アイドル依存症」という新たなテーマを見つけた点が優秀論文に値する。受験勉強と格闘する中でまたアイドルの世界に逃げこんでしまいたくなることもあるかもしれないが、この論文の執筆プロセスで身につけた「どうすべきか?」「なぜか?」を繰り返しながら、アイドル依存と向き合っていってほしい。

革小物の制作実践

～伝統工芸を職業選択の一つとして～

2年 山田結香

1. 問題設定

私は17年間将来の夢が無く、そして仕事の選択条件として、「スーツを着たくない」「パソコン仕事をしたくない」「派遣は嫌」「フリーターも嫌」という考えがあり、手に職をつけたいと思ったので、革制作をしてみて将来の夢として検討したい。

実際、昔、群馬県の「たくみの里」という、伝統工芸を体験できる場所で革製品に名前を打つ体験をしたことがあり、とても楽しかった記憶があるため今回は一から革製品を作ってみようと思い選択した。

一方で、伝統工芸は、社会的に大きな問題となっている。最近では「安価な海外製品の流入や後継者不足で苦境にあえぐ伝統工芸品は多い。伝統的工芸品産業振興協会によると、1983年に約5400億円だった伝統工芸品の生産高は2015年に約1020億円まで減少(日本経済新聞2018年6月9日)」と書かれており、伝統工芸士の後継者不足が問題視されている。

そこで、本レポートでは、実際に革小物を制作することで、自分が伝統工芸士の後継者になれるか、検討してみたい。

2. 用意するもの

● 材料

- ・牛革ロロマ 1.6mm厚 4.5DS(15×30cm)

黒 ×1

価格:税込

1320円

- ・牛革ロロマ 5枚セット 1.5DS(10×15cm)

[黒 1.2mm]

[チョコ 1.6mm]

[ブラウン 1.6mm]

[ナチュラル 1.6mm]

[プルーニャ 1.6mm]

価格 : 税

込 1485円



● 道具

- ・ 4mmピッチの
1本・2本・4本・6本菱目打ち
- ・ ゴムハンマー
- ・ ステッチンググルーバー
- ・ ゴム板
- ・ 革包丁
- ・ A4カッティングマット
- ・ 千枚通し
- ・ ねじ捻
- ・ ヘラ
- ・ サンドスティック
- ・ コーンスリッカー
- ・ 角定規
- ・ 生ゴム
- ・ 蜜蝋
- ・ ホック打ち具セット
- ・ ハトメ抜き2.5mm・3mm・5mm
- ・ 針セット
- ・ 0.8mmロウ引き糸8色×12m
- ・ バネホック10mm・12mm・15mm
- ・ 15mmのジャンパーホック
- ・ ボンド
- ・ トコノール
- ・ 型紙



3. 作成

(1) 革に跡をつける

型紙

型紙を、ずれないように革の表側にしっかり固定し、型紙に沿って千枚通しで跡をつける。



(2) 革を切る

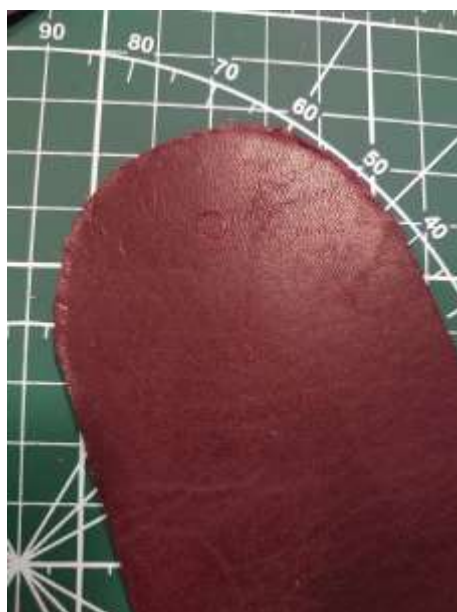
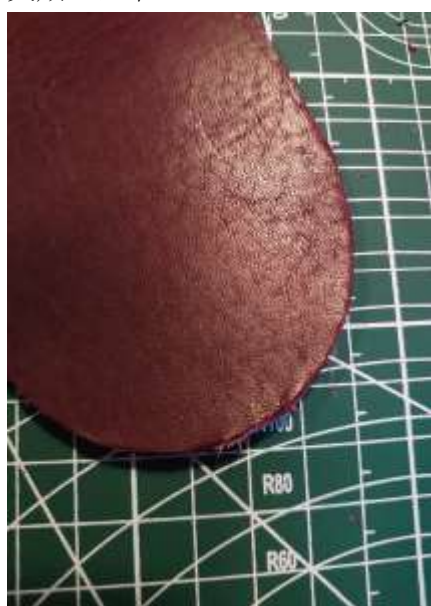
跡をつけた線の通りに革包丁またはカッターで切断する。

説明書には、革の断面が垂直になるように革包丁を傾けて使うと書かれていた。

しかし、切った時の断面が汚く、表面の革が薄く残ったような状態になってしまった。



失敗した革



(3) トコ処理をする

トコノールを革の裏に塗りガラスの底で磨く。

トコ処理をした革としてない革



(4) ボタンの場所に穴を開ける

ゴム板の上でボタンを付ける場所にハトメ抜き(2.5mm)を垂直に立てゴムハンマーで叩いて穴を開ける。



(5) 飾り線を入れる

飾り線を入れた革とネジ捻

内側につける革の縫わない辺にネジ捻の幅を1mmに設定し飾り線を入れる。



(6) ボタンを付ける

内側の小銭の入る革にボタンを付ける。

まずボタンAを打ち台の平らな所に置きその上に革、ボタンBを順に置く。

順に乗せたらボタン打ち#633の凹みにボタンBの突起をはめて、ボタン打ちを垂直に立てゴムハンマーで叩く。

ポイントは叩く音がボタンと台座が当たる「キンキン」という金属音に変わるまでと書いてあるが、何回叩いても音が変わらない…マンション住みのため騒音も気になる…ここでの解決法は後に説明する。



(7) 革同士を接着する

まず、革同士を接着する前に接着剤が付きやすいように接着部分を荒らします。

1番大きな革の裏側に同じ形の型紙を合わせ型紙にある切込み部分に千枚通しで印を付け、片方の印から反対側の印まで、縁から2mmほどの幅をカッターナイフの背で荒らして毛羽立たせる。

そして、内側の上に来る革を表に来る革に合わせ端の位置に印を付ける

内側に来る革も接着する所を荒らす。



(8) 革を接着する

荒らした部分にボンドをヘラで付けます。

接着剤は、貼り合わせる相手側の革にも付ける。接着剤が乾いたら、はみ出した接着剤を生ゴムでこすり落とす。



(9) ボタン用の穴を開ける

ゴム板の上で表を上にしてボタンの印の所にハトメ抜き(5mm)で、穴を開ける。



(10) ガイドラインを引く

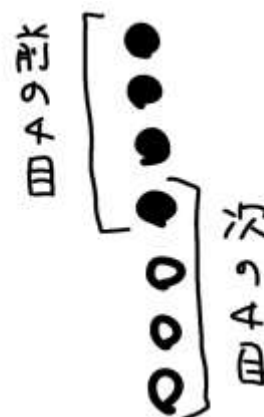
革に縫い穴を開けるためのガイドラインをネジ捻で引きます。ネジ捻を3mmに調節し表の全周に引きます。表側は曲線が多く、力加減がむずかしくて線がガタガタになってしまった。



(11) 縫い穴を開ける

ゴム板の上で表を上置き菱目打ちとゴムハンマーでガイドラインの上に穴を空ける。

革の重なった所から1目を出して打ち始める。間隔を同じにするため、開けた穴に菱目打ちの1本目の刃を合わせる。曲線部は2本の菱目打ちで穴を空ける。





(12)縫う

蠟引き糸を両手を広げたくらいの長さに糸を切り、同じ長さの針を2本用意し糸を通す。



縫い始めは内側の革から一つ離れた穴に、左手側から針を通し、革の両側の糸が同じ長さになるようにする。



次に、左手側の針を次の穴に通す。左から右に通した糸を最初に出た糸の上になるように引っ張る。引っ張る方向は縫う方向の逆方向に引き穴に隙間を作る。



できた穴にもう片方の針を通し両方の糸を引っ張る。同様に繰り返し1周縫えたら、最初塗った穴2つ分を二重縫いし、表に出ている針を内側に通し裏側に糸が出るようにする。



最後に、出ている糸を1~2mm残して切り、ライターで革を焦がさないように炙って溶かし、固まる前にライターの底で押し固める。

(13)完成!!!



4. 難しかった点と解決策

(1) 革の切り方

革を革包丁で切った時、力が弱かったのか綺麗に切ることができなかつたためYouTubeで調べ、力の強さと革包丁の傾きなどの解決策を踏まえてはみ出ている所を切り直しました。

※YouTube レザークラフト塾

【レザークラフト】革包丁・別たちの持ち方と基本動作を徹底解説！基礎を覚えてレベルアップしよう！

<https://youtu.be/2XQz1EdvhBo>

(2) ボタン付けの騒音

ボタンを付ける時、ゴムハンマーで叩く音が大きく、マンションに住んでいるため騒音が気になってしまい悩み、他に留め具は無いのか調べたら、ネジギボシという物を見つけ

それなら騒音もなく付けられるためボタンをネジギボシに変更しました。



(3) ガイドラインの引き方

ガイドラインを引く時に力加減がむずかしく、カーブの部分は線が革の外に外れてしまいガイドラインがガタガタになってしまったため、YouTubeでコツを調べネジ捻を倒しすぎていたことに気がきました。ネジ捻はガイドラインだけではなく、飾り線を入れる際にも使うので練習が必要だなとおもいました。

※YouTube 手縫い革靴 ENBAR QMENTアンバルクマン

【レザークラフトの基本】道具の使い方_ネジ捻

<https://youtu.be/U4ysCA0NE1g>

5. 今後の課題

革制作をしてみて自分が想像してたよりもむずかしく一つ一つの作業に工夫が必要で大変だったけれど、とても楽しかったです。

このレポートを書くというきっかけが無かったら革制作もできていなかったし、革小物を作る楽しさを知ることが出来ていなかったと思います。実際に体験したことで私の中で物を作る仕事をしたいという気持ちが大きくなり、もっと革小物を作りたいと思いました。伝統工芸士の後継者になるためにスキルを磨いていきたいと思っています。

将来的には、小物制作の専門学校に行き技術を学びたいと思うようになりました。また、身近な目標として、まずは雑貨屋さんなどでアルバイトをして、小物の営業方法や価格設定などを学ぶことができるといいなと思っています。

講評 <クリエイティブ>

本論文は、将来の職業選択を疑似体験してみて、今後の進路選択に活かすために「革小物を制作してみる」というクリエイティブなテーマに挑んだ優秀論文である。制作に主眼が置かれているため、他の優秀論文とは構成が少し異なっているが、制作過程での「問題発見・原因探求・問題解決」という点は他の論文と確実に共通している。実際に将来職人になったとしても、この制作過程で身につけた「問題発見・原因探求・問題解決」を繰り返すことで、よりよい作品を制作していただいたい。

肌荒れを防ぐには？

2年 蓮（仮名）

1. 問題設定

本研究の目的は、肌荒れに悩まされない方法を探ることである。理想としては、肌荒れのないきれいな肌を手に入れたい。しかし、現実としては手や顔には肌荒れが生じている。どうすべきか。

こうした肌荒れの問題は、社会全体としても大きな問題となっている。たとえば、朝日新聞デジタル2020年3月31日のウェブマガジン&Mには、「直近2～3カ月以内に約7割の女性が『肌荒れを経験した』」と書かれている。肌荒れに悩まされている女性が多く存在しているのである。

本研究では、約1か月にわたる自らの体験による統計データをもとに、肌荒れに関する文献を参考にしながら、今後の解決策を探っていくことにする。

2. 先行研究

先行研究では、保湿クリームが肌荒れに効果的であることがわかっている。肌の荒れやすい人は何回か保湿クリームをすりこむことで皮膚炎をかなり予防できるというのである（田上1999）。しかし、実際に保湿クリームを塗ったのに、肌荒れを予防することはできなかった。なぜ保湿クリームを塗ったのに、肌荒れを予防することができなかったのか。

以上のような背景から、本研究では肌荒れに悩まされる原因を自らの体験を統計データ化しながら、解決策を探ることにする。

3. 分析

（1）データの概要

5月14日から6月25日にわたって、自らの肌の状況や生活についてデータを記録した。さらに、5月21日より日々の記録の中から気づいた点を新たな変数として随時追加していった。

(2) 従属変数の説明

- ① 肌全体の尺度(1~10)
1~10の尺度で肌全体の感触を主観的に評価した。10が1番良い状態である。
- ② ほほの尺度(1~10)
1~10の尺度でほほの感触を主観的に評価した。10が1番良い状態である。
- ③ おでこの尺度(1~10)
1~10の尺度でおでこの感触を主観的に評価した。10が1番良い状態である。
- ④ 手の尺度(1~10)
1~10の尺度で手の感触を主観的に評価した。10が1番良い状態である。

(3) 独立変数の説明

- ⑤ 睡眠時間
前日の睡眠時間を時間単位で記録した。睡眠時間が長いほど肌に生の影響を与えると考えられる。
- ⑥ 掃除機(0・1)
場所にかかわらず前日に掃除機をかけなかったときを0かけたときを1として記録した。掃除機をかけることでアレルゲン物質が減少し、肌に正の影響を与えると考えられる。
- ⑦ 部屋(0・1)
前日に掃除機を部屋でかけなかったときを0かけたときを1として記録した。部屋に掃除機をかけることで、部屋の中のアレルゲン物質が減少し、肌に正の影響を与えると考えられる。
- ⑧ 部屋の掃除機時間
前日に掃除機を部屋でかけた時間を秒単位で記録した。掃除機をかける時間が長いほど肌に正の影響を与えると考えられる。
- ⑨ 布団(0・1)
前日に掃除機を布団でかけなかったときを0かけたときを1として記録した。布団に掃除機をかけることで、布団の中のアレルゲン物質が減少し、肌に正の影響を与えると考えられる。
- ⑩ 布団の掃除機時間
前日に掃除機を布団でかけた時間を秒単位で記録した。掃除機をかける時間が長いほど肌に正の影響を与えると考えられる。
- ⑪ 洗顔料(0・1)
前日に洗顔料で顔を洗っていないときを0洗ったときを1として記録した。洗顔料に含まれる界面活性剤の影響で肌に負の影響を与えると考えられる。
- ⑫ 化粧(0・1)
化粧をする箇所にかかわらず前日に化粧をしなかったときを0したときを1として記録した。化粧をすることで肌の水分が蒸発することを防ぐので肌に正の影響を与えると考えられる。
- ⑬ ベース(0・1)

前日にベースメイクをしなかったときを0したときを1として記録した。ベースメイクをすることで肌の水分が蒸発することを防ぐので肌に正の影響を与えられ

⑭ アイメイク (0・1)

前日にアイメイクをしなかったときを0したときを1として記録した。アイメイクをすることで肌の水分が蒸発することを防ぐので肌に正の影響を与えられ

⑮ 化粧水プッシュ回数

前日に顔にかけた化粧水の量を1回プッシュしたときを1としてその回数記録した。化粧品をかけることで肌が保湿されるので肌に正の影響を与えられ

⑯ 爪を切ったからの日数

前日に爪をきった日を0としその日から経過した時間を日単位で記録した。爪が長いほど搔いたときに肌を傷つけるので肌に負の影響を与えられ

(4) 相関係数

表 1 相関係数一覧

	肌全体の感 触	ほほ	おでこ	手	睡眠時間	掃除機	部屋	部屋の掃除 機時間	布団	布団の掃除 機時間	洗顔料	化粧	ベース	アイメイク	化粧水プッ シュ回数	爪を切った からの日数
肌全体																
ほほ																
おでこ																
手																
睡眠時間	0.11	-0.06	-0.06	0.24												
掃除機	0.28	0.06	0.16	0.10	0.02											
部屋	0.19	0.01	0.11	0.12	-0.13	0.62										
部屋の掃除機時間	0.13	-0.06	0.08	0.12	-0.06	0.55	0.89									
布団	0.22	0.13	-0.04	-0.04	0.10	0.71	0.29	0.14								
布団の掃除機時間	0.21	0.10	0.03	-0.11	0.11	0.68	0.38	0.30	0.88							
洗顔料	-0.01	0.16	-0.09	0.01	0.02	-0.14	-0.05	-0.03	-0.05	-0.11						
化粧	0.19	0.33	0.22	0.10	-0.20	-0.07	0.18	0.05	-0.07	-0.13	0.47					
ベース	0.15	0.29	0.23	0.01	-0.20	-0.07	0.18	0.05	-0.07	-0.13	0.47	1.00				
アイメイク	0.19	0.33	0.22	0.10	-0.20	-0.07	0.18	0.05	-0.07	-0.13	0.47	1.00	1.00			
化粧水プッシュ回数	0.48	0.49	0.20	0.32	-0.04	-0.11	0.17	0.22	-0.11	-0.07	0.54	0.73	0.73	0.73		
爪を切ったからの日数	0.04	0.03	0.32	-0.13	-0.19	0.22	0.12	0.17	0.09	-0.05	-0.26	-0.08	-0.08	-0.08	-0.51	

*相関係数が0.2を超えている変数(従属変数×独立変数)を相関があるとする。

ここでは相関係数の絶対値が0.2を超える場合を相関があると判断し検討していく。

肌全体については、「掃除機(0.28)」・「布団(0.22)」・「布団の掃除機時間(0.21)」・「化粧水プッシュ回数(0.48)」の4つの変数が相関がある。

ほほについては、「化粧(0.33)」・「ベース(0.29)」・「アイメイク(0.33)」・「化粧水プッシュ回数(0.49)」の4つの変数が相関がある。

おでこについては、「化粧(0.22)」・「ベース(0.23)」・「アイメイク(0.22)」・「化粧水プッシュ回数(0.20)」・「爪を切ったからの日数(0.32)」の5つの変数が相関がある。

手については、「睡眠時間(0.24)」・「化粧水プッシュ回数(0.32)」の2つの変数が相関がある。

以上をふまえたうえで、相関があると考えられる変数で重回帰分析を行う。

(5) 重回帰分析

肌全体において相関があると考えられる変数の中で、「掃除機」・「布団」・「布団の掃除機時間」の独立変数はお互いの相関が高いため、同時に重回帰分析に投入してしまうと多重共線性の問題が起こってしまう。そこで今回は一番大きな相関を持つ掃除機のみを重回帰分析に投入した。

表 2 肌全体を従属変数とする重回帰分析

	係数	標準誤差
切片	6.275	0.374
掃除機	0.259	0.237
化粧水プッシュ回数	0.042	0.043

表 2 が肌全体を従属変数とする重回帰分析である。これをみると「掃除機」・「化粧水プッシュ回数」が肌全体の状態に影響を持っていることがわかる。前日に掃除機をかけると評価が0.259上がり、前日の化粧水プッシュ回数が1増えると評価が0.042上がる。このように「掃除機」・「化粧水プッシュ回数」がそれぞれ肌全体の状態に正の影響を持っていることがわかる。

ほほにおいて相関があると考えられる変数の中で、「化粧」・「ベース」・「アイメイク」の独立変数はお互いの相関が高いため、同時に重回帰分析に投入してしまうと多重共線性の問題が起こってしまう。そこで今回は一番大きな相関を持つ化粧のみを重回帰分析に投入した。

表 3 ほほを従属変数とする重回帰分析

	係数	標準誤差
切片	5.792	0.615
化粧	0.084	0.585
化粧水プッシュ回数	0.105	0.095

表 3 がほほを従属変数とする重回帰分析である。これをみると「化粧」・「化粧水プッシュ回数」がほほの状態に影響を持っていることがわかる。前日に化粧をすると評価が0.084上がり、前日の化粧水プッシュ回数が1増えると評価が0.105上がる。このように「化粧」・「化粧水プッシュ回数」がそれぞれほほの状態に正の影響を持っていることがわかる。

おでこにおいて相関があると考えられる変数の中で、「化粧」・「ベース」・「アイメイク」の独立変数はお互いの相関が高いため、同時に重回帰分析に投入してしまうと多重共線性の問題が起こってしまう。そこで今回は一番大きな相関を持つベースのみを重回帰分析に投入した。

表 4 おでこを従属変数とする重回帰分析

	係数	標準誤差
切片	7.138	1.111
ベース	0.144	0.738
爪を切ったからの 日数	0.097	0.117
化粧水プッシュ回数	0.046	0.138

表4がおでこを従属変数とする重回帰分析である。これを見ると「ベース」・「爪を切ったからの日数」・「化粧水プッシュ回数」がおでこの状態に影響を持っていることがわかる。前日にベースメイクをすると評価が0.144上がり、爪を切ったからの日数が1日増えると評価が0.097上がり、前日の化粧水プッシュ回数が1増えると評価が0.046上がる。このように「ベース」・「爪を切ったからの日数」・「化粧水プッシュ回数」がそれぞれおでこの状態に正の影響を持っていることがわかる。

手において相関があると考えられる変数「睡眠時間」・「化粧水プッシュ回数」を重回帰分析に投入した。

表 5 手を従属変数とする重回帰分析

	係数	標準誤差
切片	4.063	1.280
睡眠時間	0.081	0.162
化粧水プッシュ回数	0.088	0.061

表5が手を従属変数とする重回帰分析である。これを見ると「睡眠時間」・「化粧水プッシュ回数」が手の状態に影響を持っていることがわかる。前日の睡眠時間が1時間増えると評価が0.081上がり、前日の化粧水プッシュ回数が1増えると評価が0.088上がる。このように「睡眠時間」・「化粧水プッシュ回数」がそれぞれ手の状態に正の影響を持っていることがわかる。

4. 考察

変数の説明で示した仮説と同じ結果が得られたのは以下の変数である。

「睡眠時間」・「掃除機」・「化粧」・「ベース」・「化粧水プッシュ回数」・「爪を切っ
てからの日数」 相関係数の時点で絶対値が0.2を超えず相関がないとした変数について
は、データのとり方の工夫が必要である。特に「爪を切っ
てからの日数」については、仮設
とは反対の結果が得られた。爪が伸びていることの影響が肌荒れに出てくるまでに数日かか
る可能性がある。

5. 結論

肌荒れに対する今後の具体的な対策として、以下の二つが分析の結果から得られた。

- ・ 顔にかける化粧水の量を増やすことで肌を保湿する
- ・ 掃除機をかけることでアレルゲン物質を減らす

また今後の課題として、今回は肌荒れの状態を主観的な判断で行ったために効果が見られ
なかったデータがあるかもしれないので、今後はスキンチェッカーなどを使用して客観的な
指標のもとで行う事や相関係数、重回帰分析、多重共線性などの数学的意味について数B・
大学の統計の授業で理解を深めていきたい。

(参考文献)

田上八朗 (1999) 『皮膚の医学 肌荒れからアトピー性皮膚炎まで』 中公新書。

講評 <ケーススタディ><データ分析>

本論文は、「肌荒れ」という個人的な悩みについて、データ分析を通じて解決策を探った
優秀論文である。毎日の肌の状況を記述し、その背景にある要因についても徐々に変数を増
やしながら分析・考察を進めており、「問題を発見し、原因を探求し、解決策を探る」とい
う「総合の時間」の理念に最もあてはまると考えたため、最優秀論文とした。統計分析の理
論や使い方については、大学進学後に学習を進めてもらいたい。

戦争を防ぐには

～第一次世界大戦から第二次世界大戦後の期間に注目して～

2年 F (イニシャル)

第一章 問題設定

戦争を起こさないというのが人類の理想であるというのは言うまでもない。しかし、実際に第二次世界大戦は起きてしまった。米中の経済摩擦が強まり、第三次世界大戦への不安が高まる中、今後戦争を起こさないためにはどうすればよいか。

本研究では、木村靖二・岸本美緒・小松久男編『詳説 世界史B 改訂版』山川出版社（以下、「山川p. ○○1. ○○」と表記）という教科書の記述を再構成しながら考えていきたい。

第二章 背景

第一次世界大戦終了時、国際連盟を作れば戦争をせずに済むと考えられた。不戦条約、軍縮条約など「1921-22年、アメリカ大統領ハーディングの提唱で、米、英、仏、日など九か国が参加するワシントン会議が開かれた。会議では米英仏日伊の五大国間で主力艦の保有トン数と保有比率を定めた海軍軍備制限条約、中国の主権尊重・領土保全を約束した九か国条約が結ばれた」（山川p34009）このように、国際連盟は不戦条約や軍縮を通じて、次なる世界大戦を防ぐための努力をしたのである。しかし、国際連盟を作っても戦争は起きた。なぜ第二次世界大戦は起きてしまったのか。

第三章 分析

以上のような背景を踏まえて、この章では、どのような国が、どのようなプロセスで戦争に走ったのか、を分析する。扱うのは、ドイツ、イタリア、フランス、イギリス、アメリカ、ソビエト連邦である。

① ドイツ

経済の不安定さ、失業者の爆増が、ドイツが戦争に走った背景と考えられる。「ドイツに課されたヴェルサイユ条約の義務、特に賠償支払いを厳しく要求し」（山川p342011）、「世界恐慌によって失業者が増え、社会不安が広がって議会政治が混乱すると、農民や都市の中産層のなかにドイツ社会主義労働者党の大衆宣伝に動かされる人が多くなった」（山川p360020）。このように、経済の基礎が安定しないうちに世界恐慌に見回れ、失業者が爆増し、ドイツ経済は破滅的状況になり、ドイツが戦争に走ってしまった原因の一つと考えられる。

ドイツの失業者数は、ヒトラー首相就任年の1932年は約550万人、ヒトラーがタイム誌の選ぶマンオブザイヤーを受賞した年である1938年は約43万人と激減している。このようにヒ

トラーが国のトップとなった後、ドイツは奇跡的に回復していったため、ヒトラーは国民からあがめられるようになった。

② イタリア

経済の不安定さを解決するため、対外侵略を選択したことがイタリアを戦争に走らせた原因の一つであると考えられる。「戦後のインフレーションで生活を破壊され、政府への不信を強めた」（山川p343013）、「ムッソリーニは対外侵略によって苦境を脱しようとして1935年エチオピアに侵攻」（山川p362016）、「強権的な指導者や国家が国民生活を統制して国民統合を図ることを主張し（全体主義）」（山川p343020）た。このように、経済の不安定さを解決するため、対外侵略を行ったことがイタリアを戦争に走らせてしまった原因の一つと考えられる。ちなみに、失敗に終わったミュンヘン一揆はムッソリーニが実行し、成功したローマ進軍をまねたものである。

③ フランス

世界恐慌により国内の経済が不安定になったこと、フランスがドイツが再び強大化することを恐れたことが、ドイツを戦争に走らせた背景にある。「恐慌の影響が1932年に現れ、政府は自国の植民地を囲い込んでフラン＝ブロックを築き、経済を安定させようとした。」（山川p35806）。隣国ドイツとの戦争になったときのため、ドイツ国境のエルザス＝ロートリンゲン（アルザス＝ロレーヌ）地方にマジノ線と呼ばれる大要塞を建設。事実上突破は不可能となった。しかも、フランス国内の政局は不安定だった。

④ イギリス

世界恐慌によって経済が不安定になったため、ブロック経済政策を行ったことがドイツを戦争に走らせた背景になると考えられる。「イギリス連邦内の関税を下げ、連邦外の国に対して効果税を課すスターリングブロックが結成された」（山川p35802）。

そして、ドイツとの戦いを避けるために宥和政策を進める。「ドイツの反ソ的態度に期待して、ドイツとの対決を避ける宥和政策をとった。」（山川p35804）。

1938年ミュンヘン会談では「会談ではチェコスロバキア代表を参加させないまま、ズデーテン地方をドイツへの割譲を決めた」（山川p363013）これを聞いたチェコ代表のマサリク駐英大使は落胆のあまり涙を流したが、英首相のチェンバレンは大きくあくびをしたそう。しかし、ドイツに対する宥和政策をしてもドイツとの戦争は避けられなかった。宥和政策はソ連をドイツと戦争させ両国の疲弊を待とうとしたものであるが、モロトフ＝リッペンドロップ条約でその政策は失敗となった。

⑤ アメリカ

世界恐慌によって経済が不安定になったので、ニューディール政策で安定させようとした。「1932年の選挙で民主党のフランクリン＝ローズヴェルトが当選し、ニューディールと呼ばれる経済復興政策を実施した。まず銀行の救済を図るとともに、金の流出を避けるため金本位制から離脱した」（山川p35705）。

⑥ ソビエト連邦

ソビエト連邦は経済の影響で戦争に走ったわけではない。「世界恐慌の影響を受けずに社会主義の基礎を築いたため、その計画経済は資本主義国からも注目された」（山川p36201）。このように記述されていることから経済の不安定さが戦争の理由ではない。旧ロシ

ア帝国時代の領土奪還を目的としていた。モロトフ＝リッペンドロップ条約でバルト三国、フィンランド（カレリア）、東部ポーランドの領有を保証された。

多くの人がなくなった（一部ではもはやネタと化しているが）大粛清は、ナチスのラインハルト・ハイドリヒが将来敵対するソ連の赤軍を弱体化させるため偽の書類でクーデターを起こそうとしていると流したところを、スターリンが信じて始めたという。軍事で天才といわれたトゥハチェフスキーなども被害者となった。

共産主義というイデオロギーのため大国ながら世界的に孤立していたソ連は、自国内での兵器開発などが条約により禁止され、世界随一の科学力を持つ余っていたドイツと利害関係が一致、独ソ条約締結につながった。また、ソ連領内でドイツの空軍開発もされていたそう

だ。

第四章 考察

① 世界恐慌後、ブロック経済政策が行われたから

世界恐慌は過度な供給、需要が原因だった。このことが各国の経済の不安定を招き、戦争へ向かわせたと考えられる。

ただし、外交的にも孤立し、需要、供給を国家が管理するソ連は影響を受けたとは言えない。「ドル、ポンド、フランなどの通貨を軸に経済圏を作り、他国の商品を排除するブロック経済は、ブロック間の対立を激化させ、通商に頼る中小国を苦しめた」（山川p358012）のである。

② 生活ができなかったから

上記のような世界恐慌ののち、ドイツ、イタリアでは失業者があふれた。そして、ドイツ、イタリア対外侵略によって解決しようとした。また、多数の国民が戦争に賛同したのである。

③ 少数の異論が認められなかったから

ではなぜ、生活ができない人たちが戦争へ向かったのか。それは少数の異論が認められにくい社会ができていたからだと考えられる。ドイツでは「基本的人権や市民的自由は無視され、教育や文化を含む社会のあらゆる領域が厳しく統制された」（山川p36105）。イタリアでは「ムッソリーニは大衆動員を積極的に利用し、社会事業や国内開発も推進したが、市民的自由や人権を無視する国家主義を掲げ、反対派を弾圧した」（山川p34404）のである。

第五章 結論

以上の考察を踏まえたうえで、第二次世界大戦後に行われた各国の政策を振り返ること

で、戦争を防ぐ方法を考えてみたい。

① 経済の安定化

戦前の経済の不安定化が戦争を招いた経験を踏まえ、戦後は経済の安定化が模索された。「戦後の国際金融・経済面における協力体制を築くために1944年7月、連合国の代表はアメリカのブレトン＝ウッズに集まり、国際通貨基金（IMF）と国際復興開発銀行（IBRD）の設立に合意し、両組織は45年12月に発足した。また関税などの貿易障壁の撤廃を促す協定は、47年10月、関税と貿易に関する一般協定（GATT）として成立した。これらの諸制度は、世界規模の防衛機自由化により世界平和を支える目的で構想されたものであり、アメリカ合衆国の国内通貨であるドルが基軸通貨とされた。」（山川p372019）。このように、まずは経済の安定が戦争を防ぐためには必要であると考えられる。

② 少数の異論を認めるように民主化

前章の考察を踏まえると、少数の異論を認めるように民主化するというのが戦後の政策となりそうだ。しかしながら、ドイツで「民主化を徹底」という記述はあるものの、具体的にどのような政策が行われたかは明らかでない。これは、民主的な市民を形成する社会科の一つである世界史教科書の不備であり、歴史科目がただの一問一答暗記形式に墮してしまっている現状を象徴するものであると考えられるが、ドイツやイタリアなどファシズムを経験した国々でどのような民主化が行われたのかについては、他の文献購読も含めて今後の課題とする。

以上のような研究から、より詳しい文献や原典資料にあたって、もっと深く学習していきたいので大学の史学部を志望しようと思う。

参考文献

木村靖二・岸本美緒・小松久男編（2017）『詳説 世界史B 改訂版』山川出版社。

講評 <文献研究><正しく反省する>

本論文は、第一次世界大戦から第二次世界大戦までの流れについて、「戦争を防ぐ」という問題解決に活かすために整理し直した優秀論文である。<文献研究>であるとともに、世界レベルで<正しく反省する>というプロセスを具現化したものでもある。

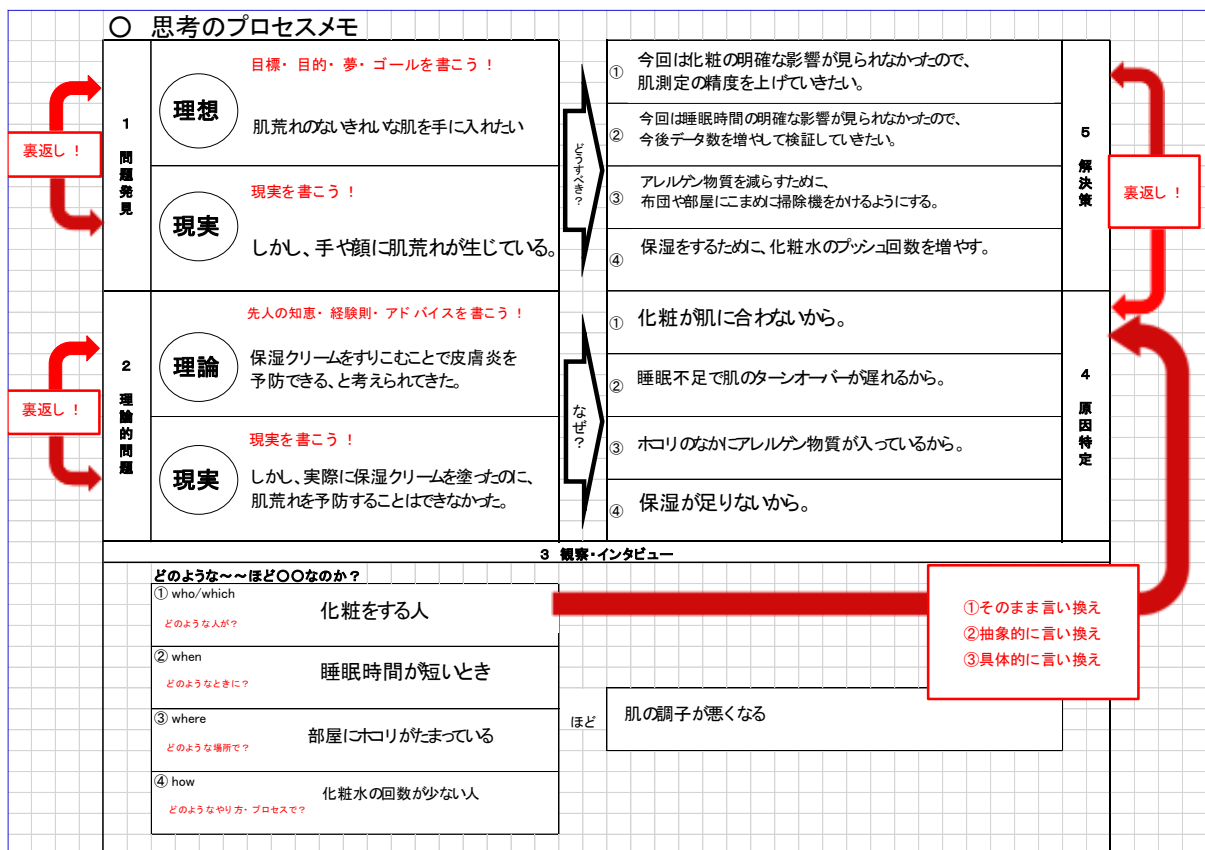
経緯としては、歴史の流れを「問題発見・原因探求・問題解決」のプロセスとしてとらえるという視点自体は講師から与えたものである。また、教科書の読み込み不足や記述と解釈のズレが見られるところもある。しかし、歴史の流れを自らの言葉で再構成し直そうという心意気は優秀論文に値する。今後、他の時代の経済史・文化史などにもチャレンジしてもらいたい。

おわりに

以上が本年度前期の優秀論文集である。執筆者本人たちの名誉のために断っておくが、「粗削りすぎる」という批判は成立しない。なぜなら、粗削りだからこそより洗練されたものを作るために、進学・就職というステップへ進むからである。

本論文集の最後に、指導の種明かしを記しておきたい。

今回の論文作成にあたっては、論文の問いと構成を以下の図のように穴埋めにして行った。これは、「肌荒れを防ぐには？」のレポートを例にしたレポートの下書きの例である。これは、「問題を発見し、原因を探求し、解決策を考える」という、総合の時間が目的とするプロセスを見える化したものである。「穴埋めにすると、自由な発想が阻害される」という偏見が教育界には根強くあるが、この優秀論文集のテーマを見てみれば、どんなテーマにもあてはめることができ、生徒たちの自由な発想が促進されていることは間違いないだろう。



ただ、それでも思考のプロセスの見える化に反対する人もいるかもしれないので、以下に補足説明を行う。

○ 正しく反省する

見える化することのメリットの第一は、正しく反省することができるようになる、ということである。来年以降の論文のひな型になるように、タイトルに論文のパターンを書き記している。〈ケーススタディ〉〈正しく反省する〉〈データ分析〉〈クリエイティブ〉〈文献研究〉といった項目である。このうち、〈正しく反省する〉の真意について補足しよう。

一般に「反省」というと、自分の起こしてしまった問題に対して「すみませんでした」と謝罪することを指すようである。しかし、謝罪しただけではまた同じ問題を起こしてしまう危険性が残る。なぜなら、「なぜそうしてしまったのか」という原因が自分でわかっていないからである。それに対して、本論文集で扱った思考のプロセスメモでは、原因をしっかりと特定し、問題の再発を防ぐためにどうすべきかを穴埋めすることが必須となっている。この原因特定と再発防止の解決策とを含んでいる点を〈正しく反省する〉と定義しているのである。

○ 3つのつながりを取り戻す

本論文集で行ったように、思考のプロセスを見える化することの第二の意義は、将来も見えずにただ漂うだけの生徒たちに3つの「つながり」を取り戻すことができるということである。「社会とのつながり」「『総合の時間』と他教科とのつながり」「進路とのつながり」である。

社会とのつながり 個人の問題からスタートする

第一のつながりは、「社会とのつながり」である。個人の問題を発見することで、初めて社会の問題に目を向けることができる、ということである。

「総合の時間」のリーフレットには、「国際理解」「環境問題」「地域研究」「創作活動を通じての自己表現」「健康と社会生活」「自由課題」があり、このなかからテーマを選択してレポートを提出する。このうち、「創作活動を通じての自己表現」「自由課題」については筆者がSPアドバイザーを担当する前はほとんど扱われず、残りの4テーマについてネットの記事を適当にまとめて提出するという状況であった。しかし、それでは社会とのつながりを見出すという「総合の時間」の理念は達成されない。

それに対し、今回のレポートでは、新聞記事を検索することで、自分が抱えている問題が社会的にも問題になっていることに気づけるしくみになっている。自分と同じような悩みを抱えている人がいて、それが新聞というメディアに載っていることがわかって初めて、新聞を読むこと、社会に目を向けることの重要性に気づくのである。

第二のつながりは、「総合の時間」と他教科とのつながりである。

これまでの「総合の時間」は各教科と関係のないことをやることに意義があると勘違いされていて、各教科の内容を「総合」という目的が達成されていなかった。

それに対し、今回のレポートでは、まず、先行研究で教科書を引用させることで、教科とのつながりをつくった。教科書に書いてあるとおりでうまくいくのなら、それ以上考える必要もない。むしろ、各教科の教科書に書いてあるとおりでうまくいかないからこそ、さまざまな教科の内容を「総合」して判断する必要があるためである。たとえば、「肌荒れ」という保健、家庭科、生物・化学と関連のあるテーマについて、統計分析という数学に関わるアプローチで検討する、ということである。もともと基礎学力に不安を抱えた生徒も多くいたので、長い文章を読み、長い文章を書くという機会を与えたことで、ほとんどの生徒が漢字や語彙の少なさに気づいて国語の意義を確認できた。

第三のつながりは、進路とのつながりである。

就職や専門学校を志望する生徒にとっては、職業の疑似体験の場として機能した。「革製品」や「特殊メイク」といった<クリエイティブ>のレポートがこれにあてはまる。この2つのレポートの作者は、そちらの進路に進む手助けとなったが、一方で、「やっぱり自分には向かない」となってもそれで前に一歩進んだことになることに注意が必要である。志望がはっきりしないでもやもやしている生徒からすると、合わない選択肢を一つ消せたことになるからである。

大学を志望する生徒にとっては、研究の疑似体験をすることで、大学で学ぶ意義を確認する場として機能した。たとえば、統計分析を行ったレポートでは、「統計学の専門的な勉強を大学で深めたい」というように、大学の志望理由が固まってきた。推薦やAO入試で進学を考える場合には、今回のレポートの最後の「今後の課題」の部分そのまま志望理由書に使えるだろう。

以上の3つのつながりは、密接に関連している。個人の問題を発見することで社会とのつながりを取り戻すことができる。社会とのつながりを取り戻すことで今学習している各教科の内容の意義を再確認できる。そして、各教科の内容の意義を再確認することで、現在学習していることと社会を中継するものとして、進路のつながりが取り戻せるのである。

○ 他の学校でも実践可能である。

思考プロセスの見える化をした第三の意義は、フォーマットを示して指導したことにより、他の学校でも同様な実践が可能である、ということである。

第一の理由は、一番厳しい環境でできたから、というものである。

これまでの「総合の時間」では、国立大の付属学校での事例が先進的な事例として出される傾向があった。しかし、そうしたもともと恵まれた環境で行われた実践をいくら紹介しても、普通の公立・私立学校ではまねすることができない。それに対し、本論文集のもととなった実践は、「はじめに」で記したような極めて厳しい環境で行われている。このような厳しい環境でも実践できたとするならば、他の学校でもまねすることができると考えられる。

第二の理由は、教員はテーマについて素人でよい、というものである。これまでの「総合の時間」では、生徒が調べるテーマについて教員はより深く知っておかなければ評価できない、という強迫観念によって、教員が忙殺されるという悲劇が起こってきた。

それに対し、フォーマットを踏まえて考えれば、教員はテーマの専門家である必要はない。実際、SPアドバイザーの筆者は、肌荒れの専門家でもないし、アイドル依存症の専門家でもない。ただ、問いにしっかり答えているかどうか。伝わる文章になっているかを確認したのである。「これって、どういうこと?」「なんでそうなるの?」と、内容に関しては完全に素人な立場で質問すればいい。これならどんな教員でもできる。内容をカバーして指導しようとして忙殺されてしまう必要もないのである。

以上の理由から、今回のようなレポート実践が他の学校でも行われることを期待して、「おわりに」をしめくくることにしよう。

「総合の時間」 スペシャルアドバイザー 安藤 理